

2018年度 L2-Tech水準表(素案)

2018年度 L2-Tech水準表（2018年11月）

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2018年11月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		<p>以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。</p> <p>部門1：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別）</p> <p>※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」</p>
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）、及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2018年11月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	<p>以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。</p> <p>標準規格による評価：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法</p>
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。

記号の使用法

本水準表の中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または調整中。

「・」：AND条件。例）空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機

「/」：OR条件。例）空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)
A 産業・業務 (業種共通)	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	L-000897 ガスヒートポンプ L-000898 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-000899 パッケージエアコン(設備用) L-000900 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-000901 氷蓄熱式パッケージエアコン	(5)
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)	L-000902 フロン類等冷媒ターボ冷凍機 L-000903 自然冷媒ターボ冷凍機 L-000904 水冷ヒートポンプチラー L-000905 空冷ヒートポンプチラー	(4)
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000907 氷蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機 (気化式・中央方式)	L-000909 間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機 (吸収式・中央方式)	L-000910 吸収冷水機 (二重効用) L-000911 吸収冷水機 (三重効用) / 廃熱投入型吸収冷水機 (三重効用) L-000912 一重二重併用形吸収冷水機 L-000913 木質ペレット直焚き吸収冷水機 (二重効用)	(4)
	熱源・空調機 (地中熱利用・中央方式)	L-000917 パッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機 (吸着式・中央方式)	L-000918 吸着式冷凍機	(1)
	熱源 (ヒートポンプ)	L-000919 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-000920 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000921 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-000922 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000923 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-000924 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-000290 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000895 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-000896 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000668 蒸気再圧縮装置	(10)
	空調機 (ペレットストーブ)	L-000629 密閉式ペレットストーブ	(1)
	給湯器 (ヒートポンプ)	L-000670 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器 (ガス式)	L-000672 潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-000611 温水機 L-000600 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-000675 蒸気ボイラ(伊簡煙管ボイラ) L-000676 蒸気ボイラ(氷管ボイラ) L-000268 水素ボイラ(貫流ボイラ) L-000689 熱媒ボイラ	(6)
	コージェネレーション	L-000690 ガスエンジンコージェネレーション L-000691 ガスタービンコージェネレーション L-000692 燃料電池コージェネレーション	(3)
	冷凍冷蔵機器	L-000695 業務用冷凍冷蔵庫 L-000696 空気冷媒方式冷凍機 L-000697 冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/002二次冷媒システム) L-000624 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	(4)
	照明器具	L-000698 LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-000699 プリンタ L-000700 複合機	(2)
	モータ	L-000701 誘導モータ L-000702 永久磁石同期モータ	(2)
	変圧器	L-000719 油入変圧器 L-000720 モールド変圧器	(2)
	モータ利用機器(圧縮機)	L-000716 蒸気駆動圧縮機 L-000717 熱回収ねじ容積形圧縮機	(2)
	窓	L-000737 Low-E複層ガラス L-000738 三層Low-E複層ガラス L-000739 真空Low-E複層ガラス L-000740 アタッチメント付きLow-E複層ガラス L-000771 真空ガラス L-000772 現場施工型後付けLow-E複層ガラス L-000743 薄型Low-E複層ガラス	(7)
	断熱材	L-000774 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-000775 断熱材(グラスウール) L-000625 真空断熱材	(3)
	洗濯機	L-000776 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-000660 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式) L-000616 蒸気サイクリング型凝縮乾燥装置 L-000666 サーバ用電子計算機	(1)
	乾燥設備	L-000616 蒸気サイクリング型凝縮乾燥装置	(1)
	その他	L-000666 サーバ用電子計算機	(1)
	オフロード特殊自動車 (建設機械・内燃機関型)	L-000704 油圧ショベル (内燃機関型) L-000705 ブルドーザ (内燃機関型) L-000706 ホイローダ (内燃機関型)	(3)

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)
B 産業 (業種固有)	オフロード特殊自動車 (建設機械・ハイブリッド型)	L-000708 油圧ショベル (ハイブリッド型)	(1)
	オフロード特殊自動車 (建設機械・電気型)	L-000711 油圧ショベル (電動型) L-000712 ブルドーザ(電動型)	(2)
	洗浄乾燥機	L-000890 遠心脱水型コンテナ (容器) 洗浄乾燥機	(1)
	蒸留塔	L-000891 内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	乾燥機	L-000892 熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
	熱処理機	L-000893 熱回収式工業用繊維物熱処理機	(1)
	自動車 (内燃機関型)	L-000894 ガソリン・ディーゼル車 (乗用車) L-000630 ディーゼル・天然ガス車 (商用車・重量車)	(2)
	自動車 (ハイブリッド型)	L-000632 ハイブリッド自動車 (乗用車) L-000633 ハイブリッド自動車 (商用車・重量車)	(2)
	自動車 (電気型)	L-000635 電気自動車 (乗用車)	(1)
	空調機 (ヒートポンプ)	L-000848 ルームエアコン L-000849 ヒートポンプ冷水システム L-000850 ヒートポンプ式温水床暖房 L-000851 ルームエアコン付温水床暖房 L-000852 マルチタイプ温水床暖房	(5)
空調機 (ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000853 地中熱ルームエアコン	(2)	
空調機 (ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000854 地中熱ヒートポンプ冷水システム (ハイブリッド式)	(1)	
空調機 (ペレットストーブ)	L-000534 密閉式ペレットストーブ(家庭用)	(1)	
給湯器 (ヒートポンプ)	L-000643 家庭用エコキュート L-000644 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)	
給湯器 (ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-000856 太陽熱集熱器対応エコキュート	(1)	
給湯器 (ガス式)	L-000645 ガス温水機器 (エコジョーズ)	(1)	
給湯器 (ヒートポンプ・ガス式)	L-000857 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)	
給湯器 (石油式)	L-000858 石油温水機器 (エコフィール)	(1)	
給湯器 (太陽熱利用)	L-000860 真空管形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用) L-000861 平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用) L-000862 蓄熱槽 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	(3)	
コージェネレーション	L-000646 家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC) L-000647 家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	(2)	
冷凍冷蔵機器	L-000648 電気冷蔵庫	(1)	
照明器具	L-000649 LED照明器具 (家庭用)	(1)	
テレビ	L-000863 液晶テレビ	(1)	
洗濯機	L-000842 洗濯乾燥機	(1)	
電気便座	L-000864 電気便座	(1)	
窓	L-000650 Low-E複層ガラス (家庭用) L-000651 三層Low-E複層ガラス (家庭用) L-000652 真空Low-E複層ガラス (家庭用) L-000653 アタッチメント付きLow-E複層ガラス (家庭用) L-000654 真空ガラス (家庭用) L-000655 現場施工型後付けLow-E複層ガラス (家庭用) L-000656 薄型Low-E複層ガラス (家庭用) L-000657 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000658 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000659 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000835 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000836 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000837 真空ガラス・樹脂サッシ L-000838 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(14)	
玄関ドア	L-000609 金属製玄関ドア	(1)	
断熱材	L-000839 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム) L-000840 断熱材(家庭用・グラスウール) L-000520 真空断熱材(家庭用)	(3)	
エネルギーマネジメントシステム	L-000846 HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)	
燃料電池	L-000780 固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	(1)	
太陽光発電	L-000786 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-000787 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-000788 太陽電池(化合物系) L-000789 太陽電池(薄膜シリコン) L-000790 トランジスタ方式パワーコンディショナ(太陽光発電用) L-000791 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	(6)	
水力発電	L-000798 プロペラ水車(小水力発電用) L-000799 フランシス水車(小水力発電用)	(2)	
地熱発電	L-000803 温水熱源小型バイナリー発電設備 L-000804 蒸気熱源小型バイナリー発電設備	(2)	
バイオマス発電	L-000807 ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	(1)	
熱輸送	L-000808 潜熱蓄熱輸送設備	(1)	
リン回収設備	L-000829 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-000830 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-000831 リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	(3)	
F 廃棄物・リサイクル	選別機	L-000833 近赤外線樹脂選別機	(1)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
													単位	名称	標準規格による評価	規格の名称	標準規格	規格の名称
L-000897	産業・業務(業種共通)	空調	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	ガスヒートポンプ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポンプ方式の空気調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	S-003275	1.19	COPp	標準規格による評価	-	-	$COPp = \frac{Ccr + Chr}{2}$ $Ccr = \frac{\Phi}{Gcr}$ $Chr = \frac{\Phi}{Ghr}$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φ: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067.2015またはJISB8627.206	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067.2015またはJISB8627.2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。	
							7.5HP超10HP以下	S-003276	1.22									
							10HP超16HP以下	S-003277	1.33									
							16HP超25HP以下	S-003278	1.34									
							25HP超	S-003279	1.3									
7.5HP以下	S-003300	-	期間成績係数(APF)	標準規格による評価	JISB8627.2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627.2015に準拠	JISB8627.2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627.2015に準拠								
L-000897	産業・業務(業種共通)	空調	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	ガスヒートポンプ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポンプ方式の空気調和機。	相当馬力数	7.5HP超10HP以下	S-003280	1.39	COPp	標準規格による評価	-	-	$COPp = \frac{Ccr + Chr}{2}$ $Ccr = \frac{\Phi}{Gcr}$ $Chr = \frac{\Phi}{Ghr}$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φ: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067.2015またはJISB8627.206	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067.2015またはJISB8627.2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。	
							10HP超16HP以下	S-003281	1.86									
							16HP超25HP以下	S-003282	1.98									
							25HP超	S-003283	1.91									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
													単位	名称	標準規格に よる評価	標準規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	S-003304	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	$COPp = \frac{Ccr + Chr}{2}$ $Ccr = \frac{\Phi}{\Phi r} (Gcr + Pcr / (3600 / 9760))$, $Chr = \Phi hr / (Ghr + Phr / (3600 / 9760))$, Ccr : 冷房成績係数 Chr : 暖房成績係数 Φcr : 定格冷房標準能力(kW) Φhr : 定格暖房標準能力(kW) Gcr : 定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr : 定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr : 定格冷房標準消費電力(kW) Phr : 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。				
								7.5HP超10HP以下	S-003307	-										
								10HP超16HP以下	S-003293	1.34										
								16HP超25HP以下	S-003294	1.34										
								25HP超	S-003296	1.27										
								7.5HP以下	S-003308	-	期間成績係数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠		
								7.5HP超10HP以下	S-003309	-										
								10HP超16HP以下	S-003295	1.86										
								16HP超25HP以下	S-003297	1.97										
								25HP超	S-003299	1.91										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	単位	名称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
															標準規格に よる評価	標準規格 JISB8616:2015	規格の名称 パッケージエ アコンディ ションナ	計算式	標準規格 JISB8616:2015	規格の名称 パッケージエ アコンディ ションナ	説明			
L-000898	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ ア コン(店舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4 ~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	-	冷房能力	4.0kW以下	S-003311	8.1	通年エネル ギ消費効率 (APF)	標準規格に よる評価	JISB8616:2015	パッケージエ アコンディ ションナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエ アコンディ ションナ	JISB8616:2015に準拠						
									4.0kW超 5.0kW以下	S-003316	7.9													
									5.0kW超 6.3kW以下	S-003318	8.1													
									6.3kW超 11.2kW以下	S-003389	7.3													
									11.2kW超 16.0kW以下	S-003396	6.7													
							16.0kW超	S-003398	6.3															
L-000899	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ ア コン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9 ~140kW程度。主に工場向け。	-	冷房能力	28kW以下	S-003404	4.8	通年エネル ギ消費効率 (APF)	標準規格に よる評価	JISB8616:2015	パッケージエ アコンディ ションナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエ アコンディ ションナ	JISB8616:2015に準拠						
									28kW超 45kW以下	S-003410	4.2													
									45kW超 56kW以下	S-003414	4													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件	
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
							28.0kW超 33.5kW以下	S-003462	6.4									
							33.5kW超 40.0kW以下	S-003468	6.2									
							40.0kW超 56.0kW以下	S-003469	6.5									
							56.0kW超 69.0kW以下	S-003470	6.4									
							69.0kW超 80.0kW以下	S-003471	6.5									
							80.0kW超 90.0kW以下	S-003472	6.4									
							90.0kW超	S-003473	6.4									
L-000901	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	氷蓄熱式パッ ケージエアコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユニットの間に氷蓄熱槽 を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱 交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った 冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ること によって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大 活用に資することが期待される。	-	蓄熱利用冷房能力	14.0kW以下	S-003474	3.64	日量蓄熱利 用冷房効率	標準規格に よる評価	JRA4053:20 07	氷蓄熱式パッ ケージエアコ ンディショナ	JRA4053:2007に準拠	JRA4053:20 07	氷蓄熱式パッ ケージエアコ ンディショナ	JRA4053:2007に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
											単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明	
						200RT以上300RT未満	S-003505		8.8 *											
						300RT以上400RT未満	S-003506		8.4 *											
						400RT以上500RT未満	S-003507		8 *											
						500RT以上600RT未満	S-003509		9.2 *											
						600RT以上700RT未満	S-003510		8.4 *											
						700RT以上1000RT未満	S-003511		9.1 *											
						1000RT以上1500RT未満	S-003512		9.29 *											
						1500RT以上	S-003513		9.29 *											
						200RT未満	S-003514		6.04 *		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠		JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	
						200RT以上300RT未満	S-003515		6.32 *											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明	
						1000.0kW超1500.0kW以下	S-003544	-												
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	S-003547	2.24	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。		
						40.0kW超80.0kW以下	S-003552	2.61												
						80.0kW超118.0kW以下	S-003556	2.54												
						118.0kW超180.0kW以下	S-003558	2.53												
						180.0kW超500.0kW以下	S-003559	2.49												
						500.0kW超1000.0kW以下	S-003566	-												
						1000.0kW超1500.0kW以下	S-003569	-												
L-000905	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	空冷ヒートポンプチラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	冷却能力	60.0kW以下	S-003298	-	-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠		
						60.0kW超90.0kW以下	S-003301	6.2												
						90.0kW超120.0kW以下	S-003303	6												
						120.0kW超160.0kW以下	S-003305	5.6												
						160.0kW超	S-003306	5.3												
						60.0kW以下	S-003310	3.85	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
						60.0kW超90.0kW以下	S-003313	3.99												
						90.0kW超120.0kW以下	S-003314	4												
						120.0kW超160.0kW以下	S-003315	3.26												
						160.0kW超	S-003317	3.16												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)			クラス能力(単位)	測定単位	単位	名称	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	説明	
															標準規格	規格の名称			標準規格
						出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	S-003319	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下		S-003320	-										
						90.0kW超120.0kW以下		S-003321	2.51	0	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。	
						120.0kW超160.0kW以下		S-003322	2.58										
						160.0kW超		S-003323	2.54										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口温 度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-003324	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては0℃、ブライン出 口温度については-5℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下		S-003325	2.84										
						90.0kW超120.0kW以下		S-003326	2.52										
						120.0kW超160.0kW以下		S-003327	2.64										
						160.0kW超		S-003328	2.79										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口温 度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-003329	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては0℃、ブライン出 口温度については-5℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下		S-003330	2.9										
						90.0kW超120.0kW以下		S-003331	2.75										
						120.0kW超160.0kW以下		S-003332	-										
						160.0kW超		S-003333	-										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度-2℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-003334	2.5	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては-2℃、ブライン出 口温度については-5℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		S-003335	2.71										
						90.0kW超120.0kW以下		S-003336	2.72										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説 明				
						60.0kW超90.0kW以下	S-003355	-															
						90.0kW超120.0kW以下	S-003356	-															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003358	2.89	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠						
						160.0kW超	S-003357	-															
					出口温度60℃ 寒冷地仕様	加熱能力	60.0kW以下	S-003359	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					ただし、出口温度は60℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下	S-003360	-															
						90.0kW超120.0kW以下	S-003361	2.02	0	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					ただし、出口温度は60℃とする。	
						120.0kW超160.0kW以下	S-003362	2.04															
						160.0kW超	S-003363	2															
					寒冷地仕様、放水式	冷却能力	60.0kW以下	S-003364	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	S-003365	-															
						90.0kW超120.0kW以下	S-003366	-															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003367	-															
						160.0kW超	S-003368	-															
						60.0kW以下	S-003373	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠						
						60.0kW超90.0kW以下	S-003371	-															
						90.0kW超120.0kW以下	S-003370	-															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003374	3.79	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-003397	5.65	測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称	計算方法		試験条件	
													単 位	名 称		標準規格	規格の名称		計算式	標準する規格	規格の名称	説明
						90.0kW超 120.0kW以下	S-003397	5.65														
						120.0kW超 160.0kW以下	S-003393	5.04														
						160.0kW超	S-003394	6.3														
					冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-003399	-	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066:20 14	ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:20 14	ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。			
						60.0kW超90.0kW以下	S-003400	6														
						90.0kW超120.0kW以下	S-003401	5.9														
						120.0kW超160.0kW以下	S-003402	5.7														
						160.0kW超	S-003403	5.6														
						60.0kW以下	S-003405	4	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	S-003406	4.13	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						90.0kW超120.0kW以下	S-003407	3.86														
						120.0kW超160.0kW以下	S-003408	3.5														
						160.0kW超	S-003409	3.22														
					冷房専用	冷却能力	60.0kW以下	S-003411	-	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014に準拠。			
						60.0kW超90.0kW以下	S-003412	5.7	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014に準拠。				
						90.0kW超120.0kW以下	S-003413	5.6														
						120.0kW超160.0kW以下	S-003415	5.4														
						160.0kW超	S-003416	5.3														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位	単 位	名 称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
															標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説 明	
						60.0kW以下	S-003418	3.67	-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。				
						60.0kW超90.0kW以下	S-003419	4.07	0	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。				
						90.0kW超120.0kW以下	S-003420	3.77													
						120.0kW超160.0kW以下	S-003421	3.56													
						160.0kW超	S-003422	5.3													
					冷房専用、ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-003424	2.78	0	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-2℃、ブライン出口温度については-5℃とする。			
						60.0kW超90.0kW以下	S-003425	2.71													
						90.0kW超120.0kW以下	S-003427	2.72													
						120.0kW超160.0kW以下	S-003428	-	-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-2℃、ブライン出口温度については-5℃とする。				
						160.0kW超	S-003429	-													
					冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-003430	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。			
						60.0kW超90.0kW以下	S-003432	6.6	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。				
						90.0kW超120.0kW以下	S-003433	6.4													
						120.0kW超160.0kW以下	S-003434	6.1													
						160.0kW超	S-003435	6													
						60.0kW以下	S-003438	4.86	0	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。				
						60.0kW超90.0kW以下	S-003439	6.2													
						90.0kW超120.0kW以下	S-003441	5.46													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						120.0kW超160.0kW以下	S-003437	4.86															
						160.0kW超	S-003436	6	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠						
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-003442	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	S-003443	6	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。						
						90.0kW超120.0kW以下	S-003445	5.9															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003446	5.7															
						160.0kW超	S-003447	5.6															
						60.0kW以下	S-003449	4.01	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。						
						60.0kW超90.0kW以下	S-003451	4.09	0	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。						
						90.0kW超120.0kW以下	S-003452	3.86															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003454	3.5															
						160.0kW超	S-003455	3.22															
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-003456	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	S-003457	7	0	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。						
						90.0kW超120.0kW以下	S-003459	6.7															
						120.0kW超160.0kW以下	S-003460	6.5															
						160.0kW超	S-003461	6.3															
						60.0kW以下	S-003463	5.04	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しきみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件							
											単 位	名 称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説 明						
							350kW超540kW以下	S-003644	-															
							540kW超	S-003645	-															
L-000922	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(水熱源・一 過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	S-003649	4.3 *	-	年間標準貯湯 加熱エネルギー 消費効率	標準規格に よる評価	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠						
							水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	S-003652	10.2 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃
L-000923	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(水空気熱 源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	S-003654	2.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾燥温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃乾燥温度：25℃湿球温度：21℃温水出入口温度差：5℃
							水熱源運転、温水出口温度 65℃、熱源水入口温度20℃ 以下、熱源水出口温度15℃ 以下、温水出入口温度差5℃	S-003656	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出入口温度差：5℃
							水熱源運転、温水出口温度 75℃、熱源水入口温度 17℃、熱源水出口温度7℃、 温水出入口温度差10℃	S-004478	3.05 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：17℃熱源水出口温度：7℃温水出入口温度差：10℃
L-000924	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(水空気熱 源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	S-003669	4.1 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠						
							水熱源運転	S-003671	3.9 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠						
L-000628	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる装置	-	-	S-003672	3.5	0	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-						成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、外気温度(乾燥温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：80℃、外気温度(乾燥温度/湿球温度)25℃/21℃とする。	
L-000895	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(水熱源・一過/ 循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	-	-	S-003673	3.7	0	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-						成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃	
							水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	S-003675	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃
L-000896	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源・ 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気発生させる熱源装置。	-	-	S-003676	3.53 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-						成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG、熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃	
							蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度65℃、熱源水出口 温度60℃	S-003678	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-						成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG熱源水入口温度：80℃熱源水出口温度：70℃	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		標準条件による評価	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	説明
									S-003677	2.46		成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温度：65℃
L-000668	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	熱源(ヒートポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量 1.0ton/h以上2.0ton/h以下、 給水温度80℃	-	-	S-003680	0.067	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を次のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.2MPaG以下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水温度：80℃
						吐出圧力0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量 3.0ton/h以上、給水温度80℃	-	-	S-003681	0.064	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.3MPaG以下 吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度80℃	-	-	S-003682	0.085	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸気量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度：80℃
L-000629	産業・業務(業種共通)	空調	空調機(ペレットストーブ)	密閉式ペレットストーブ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	S-003684	77	%	熱効率	標準条件による評価	JHIAN-5601.2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	η=100-(qa+qb+qr)、η：熱効率[%]、qa：試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失(Qa)の比、熱による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、qb：試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失(Qb)の割合による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、qr：試験燃料の熱容量当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構成、物質による損失の割合(燃焼基準) [%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN-5601.2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	JHIAN-5601.2004に準拠、試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。	
L-000670	産業・業務(業種共通)	給湯	給湯器(ヒートポンプ)	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含むもの。	加熱能力	10kW以下	S-003686	4.2	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	
						10kW超20kW以下	S-003687	4.2	0	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠		
						20kW超30kW以下	S-003689	3.9											
						30kW超40kW以下	S-003690	3.8											
						40kW超50kW以下	S-003691	3.8											
						50kW超	S-003692	3.8											
					寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	S-003693	3.5	-	寒冷地年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	
						10kW超20kW以下	S-003694	3.5	0	寒冷地年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠		
						20kW超30kW以下	S-003695	3.5											
						30kW超40kW以下	S-003696	3.4											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
											単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明		
							40kW超50kW以下	S-003697	3.3												
							50kW超	S-003699	3.3												
L-000672	産業・業務 (業種 共通)	給湯	給湯器 (ガス 式)	潜熱回収型給湯 器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機 器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	-	S-003720	95	%	熱効率	標準規格に よる評価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス温 水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:20 10R	家庭用ガス温 水機器	JISS2109:2010Rに準拠		
L-000611	産業・業 務(業種 共通)	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒 水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。 熱媒水を真空状態に密閉した状態で循環させる真空式と、熱媒水を 大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	-	出力	1000kW未満	S-003722	95	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:200 0	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:200 0	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
							1000kW以上2000kW未満	S-003728	91												
							2000kW以上	S-003731	89												
						燃料：LPG、潜熱回収型	出力	1000kW未満	S-004517	105	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:200 00	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	標準規格による評価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
							1000kW以上2000kW未満	S-004518	-												
							2000kW以上	S-004519	-												
						燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	S-004520	90	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	HA-034-2: 2015または HA-034-1: 2015	日本暖房機器 工業規格 HA	標準規格による評価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
							200kW以上300kW未満	S-004521	90												
							300kW以上400kW未満	S-004522	90												
							400kW以上500kW未満	S-004523	90												
							500kW以上600kW未満	S-004524	90												
						燃料：薪	出力	100kW以下	S-004525	90	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	HA-034-2: 2015または HA-034-1: 2015	日本暖房機器 工業規格 HA	標準規格による評価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00	陸用ボイラー 熱動定方式、 真空式温水発 生機、または 無圧式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
							100kW以下	S-004526	90												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			準拠する規格		試験条件					
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	規格の名称	規格の名称	説 明					
									S-004527	90														
									S-004528	85														
									S-004529	85														
L-000600	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-003735	97	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	随用ボイラ熱動定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」					
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-003737	98														
								3000kg/h以上	S-003739	99														
							潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	S-003741	102	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	随用ボイラ熱動定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」				
								3000kg/h以上	S-003745	102														
L-000674	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	クローズド回収型(給水温度100℃以上)、エアヒータ(空気予熱器)の搭載	(相当) 蒸発量	3000kg/h未満	S-004498	98 *	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JIS B 8222-1993	随用ボイラ熱動定方式	標準規格による評価	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「貫流ボイラ性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠					
								3000kg/h以上	S-004499	- *														
L-000675	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-003748	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠					
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-003750	92														
								3000kg/h以上7200kg/h未満	S-003752	96														
								7200kg/h以上19200kg/h未満	S-003754	96														
								19200kg/h以上	S-003755	92														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
											単 位	名 称		標準規格に よる評価	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
L-000676	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管 ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を 他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産 業用や、地域暖房用で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-003757	92	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222- 1993	陸用ボイラー 熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイラー 熱動定方式	JISB8222-1993に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-003759	-									
								3000kg/h以上7200kg/h未満	S-003761	96									
								7200kg/h以上19200kg/h未 満	S-003763	94									
								19200kg/h以上	S-003765	94									
L-000621	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	ボイラ	水素ボイラ(貫 流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を 他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排 出しない事から、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を 削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象 とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業 種で利用が拡大を期待される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-003767	-	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222- 1993	陸用ボイラー 熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法人 日本小型貫流 ボイラー協会 が定めるボイ ラ性能基準	陸用ボイラー 熱動定方式お よび公益財団 法人日本小型 貫流ボイラー 協会が定める ボイラ性能基 準	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準 値」に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h	S-003769	95									
								3000kg/h以上	S-003771	-									
L-000689	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得 られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度に することが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工 業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	S-003773	92	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222- 1993	陸用ボイラー 熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイラー 熱動定方式	JISB8222-1993に準拠
								1000kW以上2000kW未満	S-003775	92									
								2000kW以上	S-003777	92									
L-000690	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレ ーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を 同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システ ム。廃熱で発生する蒸気や温湯は、製造業のプロセス利用や、施設 の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	S-003778	85.5	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーションシ ステムの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	S-003779	86.5									
								10kW超25kW以下	S-003780	85.5									
								25kW超35kW以下	S-003782	88									
								35kW超250kW以下	S-003784	90.2									
								250kW超500kW以下	S-003786	83.8									
								500kW超750kW以下	S-003788	87.8									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件	
											単 位	名 称		標準規格	規格の名称		計算式	標準する規格			規格の名称	説 明
						750kW超1000kW以下	S-003791	87.8														
						3000kW超	S-003792	87														
						5kW以下	S-003794	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠				
						5kW超10kW以下	S-003796	31.5														
						10kW超25kW以下	S-003798	33.5														
						25kW超35kW以下	S-003800	33.5														
						35kW超250kW以下	S-003802	35.5														
						250kW超500kW以下	S-003804	41.6														
						500kW超750kW以下	S-003805	41.9														
						750kW超1000kW以下	S-003807	42.5														
						3000kW超	S-003810	49.5														
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-003811	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
							2000kW超3000kW以下	S-003813	77.5													
							1000kW超2000kW以下	S-003815	43.7	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
							2000kW超3000kW以下	S-003817	43.4													
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-003819	74.3	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
							2000kW超3000kW以下	S-003821	77.9													
							1000kW超2000kW以下	S-003823	45.5	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称	計算方法		試験条件	
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称		計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						2000kW超3000kW以下	S-003831	47.8												
					60Hz	発電出力	5kW以下	S-003833	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションシステムの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠		
						5kW超10kW以下	S-003835	86.5												
						10kW超25kW以下	S-003837	85.5												
						25kW超35kW以下	S-003839	88												
						35kW超250kW以下	S-003841	90.7												
						250kW超500kW以下	S-003844	82.1												
						500kW超750kW以下	S-003846	87.8												
						750kW超1000kW以下	S-003847	87.8												
						3000kW超	S-003850	87												
						5kW以下	S-003851	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションシステムの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
						5kW超10kW以下	S-003860	31.5												
						10kW超25kW以下	S-003862	33.5												
						25kW超35kW以下	S-003864	33.5												
						35kW超250kW以下	S-003867	37												
						250kW超500kW以下	S-003869	42												
						500kW超750kW以下	S-003872	41.3												
						750kW超1000kW以下	S-003874	42.5												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格	規格の名称	計算方法		参照する規格	規格の名称	試験条件	説明
											単位	名称				計算式	規格の名称				
									S-003664	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠		
									S-003665	27.2											
									S-003666	28.4											
									S-003667	29.9											
									S-003668	39.3											
									S-003670	34.3											
									S-003674	38.8											
									S-003679	40.9											
L-000692	産業・業務(業種共通)	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	燃料電池コージェネレーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	燃料ガスの種類: 純水素	発電出力	75kW以下	S-003683	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	
									75kW超150kW以下	S-003685	93										
									150kW超	S-003688	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						75kW超150kW以下	S-003715	93															
						150kW超	S-003716	-															
						75kW以下	S-003717	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	S-003718	48															
						150kW超	S-003719	-															
					60Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	75kW以下	S-003721	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	S-003723	91															
						150kW超	S-003724	-															
						75kW以下	S-004476	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	S-003726	42															
						150kW超	S-004477	-															
					60Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	75kW以下	S-003729	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	S-003730	84															
						150kW超	S-003732	-															
						75kW以下	S-003733	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	S-003734	40															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明	
L-000695	産業・業 務（業種 共通）	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高い断熱性能が求められる。	冷蔵庫：横型	容量	250L以下	S-003738	280	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								250L超350L以下	S-003740	320										
								350L超450L以下	S-003742	400										
								450L超	S-003743	470										
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下	S-003744	340	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								700L超1200L以下	S-003746	420										
								1200L超	S-003747	600										
						冷蔵庫：横型	容量	250L以下	S-003749	810	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								250L超350L以下	S-003751	1010										
								350L超	S-003753	1130										
						冷蔵庫：縦型	容量	700L以下	S-003756	1030	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫－特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								700L超900L以下	S-003758	1550										
								900L超1200L以下	S-003760	2020										
								1200L超1500L以下	S-003762	2440										
								1500L超	S-003764	3130										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		標準規格に よる評価	標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1室)	容量	250L以下	S-003766	1070	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009に準拠	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	S-003768	1190									
								350L超	S-003770	1270									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1室)	容積	1200L以下	S-003772	1090	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009に準拠	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								1200L超	S-003774	1430									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2室)	容量	900L以下	S-003776	1490	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009に準拠	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫—特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								900L超1200L以下	S-003781	1660									
								1200L超	S-003783	1810									
L-000696	産業・業務(業種共通)	動力他	冷凍冷蔵機器	空気冷媒方式冷凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の空気を冷やす冷凍機。	庫容量(有効容積)1300m3	-	-	S-003785	0.42	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を次のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。庫内温度：-60℃
						庫容量(有効容積)2600m3	-	-	S-003787	0.4	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を次のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。庫内温度：-60℃
L-000697	産業・業務(業種共通)	動力他	冷凍冷蔵機器	冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷媒システム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5～マイナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:32℃	-	冷凍能力	S-003789	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:32℃

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
						100kW超 200kW以下	S-003790	-										
						200kW超	S-003793	3.41 *										
					庫内温度：-20℃超10℃以下、CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：30℃	冷凍能力	50kW以下	S-003795	2.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：30℃
						50kW超	S-003797	-										
					庫内温度：-20℃超10℃以下、CO2温度：-17℃超-5℃以下、吸込空気温度：32℃	冷凍能力	50kW以下	S-003799	1.8 *	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下、吸込空気温度：32℃
						50kW超	S-003801	-										
					庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	S-003803	2.04 *	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。CO2温度：-37℃超-27℃以下、冷却水入り口温度：32℃
						50kW超 150kW以下	S-003806	2.32 *										
						150kW超 250kW以下	S-003808	2.32 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明	
L-000624	産業・業務 (業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷媒冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対し て、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	S-003812	2.02	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠	
								16.0kW超24.0kW以下	S-003814	-										
								24.0kW超36.0kW以下	S-003816	-										
								36.0kW超	S-003818	-										
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-003820	1.01	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠	
								8.0kW超12.0kW以下	S-003822	-										
								12.0kW超18.0kW以下	S-003824	-										
								18.0kW超	S-003825	-										
						中温用(吸込み圧力飽和温度 10℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-004479	2.1 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠	
								8.0kW超16.0kW以下	S-004480	1.77 *										
								16.0kW超24.0kW以下	S-004481	1.68 *										
								24.0kW超36.0kW以下	S-004482	1.77 *										
								36.0kW超	S-004483	- *										
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	S-004484	0.94 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称		計算方法		試験条件		
											単 位	名 称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説 明		
							4.0kW超8.0kW以下	S-004485	0.91 *													
							8.0kW超12.0kW以下	S-004486	0.85 *													
							12.0kW超18.0kW以下	S-004487	0.91 *													
							18.0kW超	S-004488	- *													
					中温用(吸込み圧力飽和温度10℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	S-004490	- *	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA 4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA 4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠					
							16.0kW超24.0kW以下	S-004491	- *			JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠					
							24.0kW超36.0kW以下	S-004492	2 *						JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠					
							36.0kW超	S-004493	- *													
					低温用(吸込み圧力飽和温度-40℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-004494	- *	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA 4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠					
							8.0kW超12.0kW以下	S-004495	- *													
							12.0kW超18.0kW以下	S-004496	0.94 *													
							18.0kW超	S-004497	- *													
L-000698	産業・業務(業種共通)	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。	ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	S-003826	133.9	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998				
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	S-003827	134.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998				
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	S-003828	131.9	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件	
											単位	名称	標準規格による評価	標準規格による評価	標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称
					ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	-	S-003829	140.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	-	S-003830	162.4	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	-	S-003832	150.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼白色、電球色、配光角30°以下	-	-	S-003834	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	-	S-003836	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼白色、電球色、配光角60°超	-	-	S-003838	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	-	S-003840	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	-	S-003842	157.2	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	-	S-003843	187.6	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
					ベースライト型(スクエア)	-	32W蛍光灯相当スクエアサイズ	S-003845	172.8	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	
						-	45W蛍光灯相当スクエアサイズ	S-003848	164	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3-2011、JISC8105-5-2011及びJISZ8113:1998に準拠	3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	規格 名称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
														標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明		
						ベースライト型(ストレート)	-	-	S-003849	194	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISC28113:1998に準拠
L-000699	産業・業務(業種共通)	動力他	プリンタ/複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清刷の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED(発光ダイオード)を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	S-003852	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	
						カラー印刷機能有	-	-	S-003853	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	
L-000700	産業・業務(業種共通)	動力他	プリンタ/複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	S-003854	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	
						カラー複写機能有	-	-	S-003855	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件	
L-000701	産業・業務(業種共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	S-003856	85	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械 JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械 第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランスレータモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	
								0.75kW超1.1kW以下	S-003857	85.5											
								1.1kW超1.5kW以下	S-003858	89.4											
								1.5kW超2.2kW以下	S-003859	89.5											
								2.2kW超3.0kW以下	S-003861	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						3.0kW超3.7kW以下	S-003891	89.4										
						3.7kW超4.0kW以下	S-003893	-										
						4.0kW超5.5kW以下	S-003894	91.9										
						5.5kW超7.5kW以下	S-003896	91.7										
						7.5kW超11.0kW以下	S-003898	92.5										
						11.0kW超15.0kW以下	S-003900	93.1										
						15.0kW超18.5kW以下	S-003902	94.1										
						18.5kW超22.0kW以下	S-003904	93.9										
						22.0kW超30.0kW以下	S-003906	94.5										
						30.0kW超37.0kW以下	S-003907	95.1										
						37.0kW超	S-003910	96										
					50Hz、200V、極数6	容量	0.75kW以下	S-003912	83.8	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 —第2—1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 —第2—1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
						0.75kW超1.1kW以下	S-003914	-										
						1.1kW超1.5kW以下	S-003915	87.2										
						1.5kW超2.2kW以下	S-003917	89.3										
						2.2kW超3.0kW以下	S-003918	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						3.0kW超3.7kW以下	S-003920		89.3									
						3.7kW超4.0kW以下	S-003922		-									
						4.0kW超5.5kW以下	S-003925		91.1									
						5.5kW超7.5kW以下	S-003926		91.1									
						7.5kW超11.0kW以下	S-003929		91.7									
						11.0kW超15.0kW以下	S-003931		92.5									
						15.0kW超18.5kW以下	S-003932		92.7									
						18.5kW超22.0kW以下	S-003934		93.2									
						22.0kW超30.0kW以下	S-003936		94.2									
						30.0kW超37.0kW以下	S-003938		93.9									
						37.0kW超	S-003940		94.7									
					60Hz、220V、極数2	容量	0.75kW以下	S-003942		86.2	% エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 -第2-1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機-低圧トッ プランナー モーター	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 -第2-1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機-低圧トッ プランナー モーター	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
						0.75kW超1.1kW以下	S-003943		86.3									
						1.1kW超1.5kW以下	S-003945		90.2									
						1.5kW超2.2kW以下	S-003946		90.8									
						2.2kW超3.0kW以下	S-003948		-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称	計算方法		標準規格	規格の名称	試験条件	
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称		計算式	準拠する規格			規格の名称	説 明
						3.0kW超3.7kW以下	S-003980		90.7													
						3.7kW超4.0kW以下	S-003982		-													
						4.0kW超5.5kW以下	S-003984		92.8													
						5.5kW超7.5kW以下	S-003985		92.9													
						7.5kW超11.0kW以下	S-003986		93.3													
						11.0kW超15.0kW以下	S-003987		93.6													
						15.0kW超18.5kW以下	S-003989		94.7													
						18.5kW超22.0kW以下	S-003990		94.7													
						22.0kW超30.0kW以下	S-003993		94.9													
						30.0kW超37.0kW以下	S-003994		95.7													
						37.0kW超	S-003996		96.3								JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	回転電機機械 第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧トッブランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。			
					60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	S-003998	85.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電機機械 第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧トッブランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電機機械 第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧トッブランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW超1.1kW以下	S-003999		-													
						1.1kW超1.5kW以下	S-004000		-													
						1.5kW超2.2kW以下	S-004001		90.4													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単 位	名 称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
						750kVA超1000kVA以下	S-003919		1965									
						1000kVA超1500kVA以下	S-003921		2750									
						1500kVA超2000kVA以下	S-003923		3700									
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	S-003924	120	W	全損失	標準規格に よる評価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
						20kVA超30kVA以下	S-003927		133									
						30kVA超50kVA以下	S-003928		192									
						50kVA超75kVA以下	S-003930		220									
						75kVA超100kVA以下	S-003933		268									
						100kVA超150kVA以下	S-003935		366									
						150kVA超200kVA以下	S-003937		440									
						200kVA超300kVA以下	S-003939		549									
						300kVA超500kVA以下	S-003941		820									
						500kVA超750kVA以下	S-003944		1450									
						750kVA超1000kVA以下	S-003947		1890									
						1000kVA超1500kVA以下	S-003949		2600									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
						1500kVA超2000kVA以下	S-003951	3365																
					油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	S-003953	57	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠						
						10kVA超20kVA以下	S-003955	76																
						20kVA超30kVA以下	S-003957	102																
						30kVA超50kVA以下	S-003959	147																
						50kVA超75kVA以下	S-003961	162																
						75kVA超100kVA以下	S-003964	210																
						100kVA超150kVA以下	S-003966	291																
						150kVA超200kVA以下	S-003969	360																
						200kVA超300kVA以下	S-003971	470																
						300kVA超500kVA以下	S-003972	780																
					油入変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	S-003974	51	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠						
						10kVA超20kVA以下	S-003976	68																
						20kVA超30kVA以下	S-003978	95																
						30kVA超50kVA以下	S-003981	145																
						50kVA超75kVA以下	S-003983	165																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説 明				
							75kVA超100kVA以下	S-003988	207														
							100kVA超150kVA以下	S-003991	286														
							150kVA超200kVA以下	S-003992	354														
							200kVA超300kVA以下	S-003995	466														
							300kVA超500kVA以下	S-003997	775														
L-000720	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	S-004035	167	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠				
								20kVA超30kVA以下	S-004036	201													
								30kVA超50kVA以下	S-004037	311													
								50kVA超75kVA以下	S-004039	244													
								75kVA超100kVA以下	S-004041	309													
								100kVA超150kVA以下	S-004043	411													
								150kVA超200kVA以下	S-004045	460													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格 による評価	規格の名称	計算方法	標準規格	規格の名称	試験条件	
											単位	名称								標準規格 による評価
L-000739	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-004044	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築物材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar+FL3+V0.2+LE3のガラス構成における数値を示す。	
L-000740	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-004046	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar+FL3（アタッチメント付き）のガラス構成における数値を示す。	
L-000771	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-004048	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築物材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-000772	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	現場施工型後付け Low-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-004051	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。	
L-000743	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	薄型Low-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-004052	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+K2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-000774	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・種燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	S-004054	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-000775	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し線状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-004056	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	S-004059	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠
L-000625	産業・業務 (業種 共通)	空調	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム（内断熱工法）にも向く。	-	-	S-004061	0.002	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件				
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明			
L-000616	産業・業 務(業種 共通)	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル 型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気 に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇温昇圧し、被処理物の 加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気 量を大幅削減し、CO2排出量を削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃(大気圧 下)	蒸発能力	150L/h	S-004530	1.79 *	%	エネルギー消 費効率	実績値によ る評価	-	-	sysCOP=Cst×M/(Cst×Sη+Ce×E) Cst：水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと 25℃における顕熱エンタルピーの差 (=2571kJ/kg) M：被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S：ボイラー蒸気量[kg] η：熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Ce：換算係数 3.6MJ/kWh E：電力消費量[kWh]	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を 蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験 で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でア ウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いて得た値 (システムCOP)。 ・最終処分場性能指針に基づき、模擬浸出水の濃 縮・乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデー タに基づいて評価。 ・電源の周波数は50Hzとする。 ・ボイラーはA量油炊きとする。			
						750L/h	S-004531	1.79 *														
L-000776	産業・業 務(業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポン プ式衣類洗濯 乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステ ムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた 熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで 110℃前後の(または「最大115℃の」) 温風熱として放出すること で衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収が可能 な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥 できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げら れる。	-	乾燥能力 (JIS規格)	9kg以上	S-004063	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件に よる評価	JIS C 9606及 びJIS C 9608	電気洗濯機、 回転ドラム式 電気衣類乾燥 機	JIS C 9606及 びJIS C 9608	電気洗濯機、 回転ドラム式 電気衣類乾燥 機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾 燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)に よって得られた値の平均値とする。	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を 蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験 で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でア ウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いて得た値 (システムCOP)。 ・最終処分場性能指針に基づき、模擬浸出水の濃 縮・乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデー タに基づいて評価。 ・電源の周波数は50Hzとする。 ・ボイラーはA量油炊きとする。			
L-000660	産業・業 務(業種 共通)	エネル ギーマ ネジメ ント	エネル ギーマ ネジメ ントシ ステム	BEMS(制御 サービス・空 調・熱源・中央 方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを 用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービ ス。	空気熱源仕様	-	-	S-004068	-	%	エネルギー消 費効率	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-			
						水熱源仕様	-	-	S-004069	-	%	エネルギー消 費効率	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-	-	-	
L-000666	産業・業 務(業種 共通)	動力他	その他	サーバ用電子計 算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提 として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介して アクセスされる。サーバ型電子気鋭産機に搭載されているCPUは専 用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といっ た汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法 による	-	-	S-004072	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件			
						I※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-004074	0.13	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件			
						J※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-004077	0.21	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件			
						K※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-004079	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件			
						L※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-004082	0.265	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件			
L-000704	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	油圧ショベル (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれてお り、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業 を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るも のが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による 効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減 が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-004084	3.8	kg/標準作 業	燃費	標準規格に よる評価	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械—エ ネルギー消費 量試験方法— 油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械—エ ネルギー消費 量試験方法— 油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠				
						0.36 m3以上0.47 m3未満	S-004087	6.2														
						0.47 m3以上0.55 m3未満	S-004089	6.6														
						0.55 m3以上0.70 m3未満	S-004092	7.4														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	算方法		試験条件								
											単位	名称		標準規格	規格の名称	算式	標準規格	規格の名称	説明					
							0.70 m3以上0.90 m3未満	S-004094	10.8															
							0.90 m3以上1.05 m3未満	S-004096	10.7															
							1.05 m3以上1.30 m3未満	S-004098	12.1															
							1.30 m3以上1.70 m3未満	S-004100	19.4															
L-000705	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ブルドーザ(内 燃機関型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドリングの自動停止機能等の装備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	S-004102	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠					
								75kW以上170kW未満	S-004104	-														
								170kW以上300kW未満	S-004107	-														
L-000706	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ホイールローダ (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	定格出力	40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満	S-004109	-	g/t	燃費	標準規格による評価	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダまたは土工機械—燃料消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダまたは土工機械—燃料消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠					
								40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満	S-004112	24.2														
L-000708	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ ハイブリ ッド型)	油圧ショベル (ハイブリッド 型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-004114	-	kg/標準作業	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠					
								0.70 m3以上0.90 m3未満	S-004119	-														
L-000711	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	油圧ショベル (電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-004120	-	kWh/標準作業	電力消費量	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠					
								0.70 m3以上0.90 m3未満	S-004122	50.8														
L-000712	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	ブルドーザ(電動 型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採用することで低炭素化を実現している。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	S-004123	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠					
								75kW以上170kW未満	S-004124	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-004162	1.96	測定単位		評価方法の タイプ	選定する規格	規格の名称	計算方法	選定する規格	規格の名称	試験条件
													単 位	名 称							
						7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-004162	1.96	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率(入口/出口)：70～75% / 2%以下		
								2000mmW以上2300mmW未満	S-004163	1.96											
								2300mmW以上2500mmW以下	S-004164	1.98											
						8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-004166	1.95	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率(入口/出口)：70～75% / 2%以下		
								2000mmW以上2300mmW未満	S-004167	1.95											
								2300mmW以上2500mmW以下	S-004168	1.96											
L-000894	運輸	自動車	自動車 (内燃機関型)	ガソリン・ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	S-004170	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠		
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	S-004171	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠		
								コンパクトカー	S-004172	-											
								セダン	S-004174	-											
								ミニバン	S-004175	-											
								ワゴン	S-004176	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-004178	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説 明
						ガソリン車、普通自動車	-	SUV	S-004178	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠					
							-	スポーツカー	S-004179	-														
							-	セダン	S-004180	-														
							-	ミニバン	S-004181	-														
							-	ワゴン	S-004182	-														
						ディーゼル車、小型自動車	-	コンパクトカー	S-004184	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠					
						ディーゼル車、普通自動車	-	SUV	S-004186	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05Iに基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験方 法に基づく JC08モード	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠					
							-	セダン	S-004187	-														
							-	ミニバン	S-004188	-														
							-	ワゴン	S-004189	-														
L-000630	運輸	自動車	自動車 (内燃機 閉型)	ディーゼル・天 然ガス車(商用 車・重車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス車) 現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディーゼル 車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガス車と して走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガス(CNG) エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	-	区分1※区分は省エネルギー 法による	S-004191	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによ る走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによ る走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める試験条件	国土交通省審査で定める試験条件				
							-	区分2※区分は省エネルギー 法による	S-004192	-														
						貨物自動車、トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー 法による	S-004194	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによ る走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによ る走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める試験条件	国土交通省審査で定める試験条件				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
											単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明		
						ワゴン	S-004232	-													
L-000633	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-004234	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件		
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-004236	-											
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-004237	-											
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-004238	-											
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-004239	-											
L-000635	運輸	自動車	自動車 (電気型)	電気自動車(乗用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	S-004241	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠		
						普通自動車	-	ワゴン	S-004242	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠		
L-000643	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	家庭用エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげ可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	S-004244	2.8	-年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004246	4	-年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004248	3	-年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004250	3.3	-年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004252	3.3	-寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004253	2.9	-寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
													単位	名称	標準規格による評価	標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準する規格
L-000644	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温湯きあげが可能な高効率の給湯暖房システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004254	3.9	%	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011に準拠	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004256	3	%	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011に準拠	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000645	家庭	給湯	給湯器 (ガス式)	ガス温水機器(エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	S-004260	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房給湯兼用機	-	-	S-004261	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房専用機	-	-	S-004263	87	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						風呂給湯兼用機	-	-	S-004264	95.1	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
L-000646	家庭	給湯	コージェネレーション	家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことが、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC(固体高分子形燃料電池)は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80~100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG(液化石油ガス)を燃料としている。排熱効率が高く、SS(Daily Start and Stop)が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	-	-	S-004266	95	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
						-	-	S-004268	39	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
L-000647	家庭	給湯	コージェネレーション	家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)	SOFC(固体酸化物形燃料電池)は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700~750℃である。発電効率が高く24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	-	-	S-004269	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841:3.2011	小形固体酸化物形燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3.2011に準拠	JISC8841-3.2011	小形固体酸化物形燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3.2011に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
													単位	名称	標準規格に よる評価	標準規格	規格の名称	計算式
									S-004270	52	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISC8841- 3.2011	小形固体酸化 物形燃料電池 システム—第 3部：性能試 験方法及び環 境試験方法	JISC8841- 3.2011	小形固体酸化 物形燃料電池 システム—第 3部：性能試 験方法及び環 境試験方法	JISC8841-3.2011に準拠
L-000648	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。(大型冷蔵庫の一部では既に採用されている)冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはイソブタン(冷媒)、シクロペンタン(断熱材発泡剤)を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が低い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	定格内容積	140L以下	S-004271	115	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISC9801- 3.2015	家庭用電気冷 蔵庫及び電気 冷凍庫の特性 及び試験方法 —第3部：消 費電力量及び 内容積の算出	JISC9801-3.2015に準拠	JISC9801- 3.2015	家庭用電気冷 蔵庫及び電気 冷凍庫の特性 及び試験方法 —第3部：消 費電力量及び 内容積の算出	JISC9801-3.2015に準拠
							140L超200L以下	S-004272	284									
							200L超250L以下	S-004273	319									
							250L超300L以下	S-004274	350									
							300L超350L以下	S-004275	259									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標														
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称		計算方法		準拠する規格		規格の名称		試験条件	
											単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説 明						
				</																					

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		準拠する規格		試験条件
											単位	名称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	
L-000658	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-004329	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法
						引き違い	-	-	S-004330	1.7	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法
						縦すべり出し	-	-	S-004332	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法
L-000659	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	S-004334	0.75	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法
						引き違い	-	-	S-004333	1.06	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法
						縦すべり出し	-	-	S-004335	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			準拠する規格		試験条件		
											単位	名称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
L-000835	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-004336	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
						引き違い	-	-	S-004339	1.22	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
						縦すべり出し	-	-	S-004341	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
L-000836	家庭	空調	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂(塩化ビニル等)等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス(アルゴンガス、クリプトンガス等)を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス(一つの密閉中空層)を用いたもの、3枚のガラス(二つの密閉中空層)を用いたもの、5枚のガラス(四つの密閉中空層)を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	S-004343	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
						引き違い	-	-	S-004345	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
						縦すべり出し	-	-	S-004346	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)			クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		準拠する規格		規格の名称		試験条件
											単位	名称		標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	
L-000837	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004348	1.09	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
					引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004350	1.38	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法			
					襪すべり出し※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004352	1.19	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法			
L-000838	家庭	空調	窓	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004353	1.32	-	年間結露保温効率（太陽部分除く）	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法		
					引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004354	1.66	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法			
					襪すべり出し※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	S-004355	1.59	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称	説明	
L-000609	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する、アルミニウムまたはスチールを主材料としたドアにおいて、枠の内側に樹脂を使用して中空部に断熱材を充填、また扉も同様中空部に断熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流率を低くすることができる。熱貫流率が低い製品ほど冷暖房負荷及びCO2排出量が削減できる。	引き戸	-	-	S-004516	0.89	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015、JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	標準規格による評価	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JIS4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000839	家庭	空調	断熱材	断熱材(家庭用押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶解し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	S-004356	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-000840	家庭	空調	断熱材	断熱材(家庭用グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結集剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-004358	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	S-004360	0.032	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
L-000841	家庭	空調	断熱材	真空断熱材(家庭用)	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱等のリフォーム(内貼断熱工法)に向く。	-	-	-	S-004364	0.002	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	
L-000842	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	-	S-004137	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格による評価	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める試験条件	
L-000846	家庭	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	S-004142	-	%	エネルギー消費効率	器具機能による評価	-	-	-	-	-	
L-000848	家庭	空調	空調機(ヒートポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	冷房能力	2.2kW	S-004155	7.6	-	適年エネルギー消費効率(APF)	標準規格による評価	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	
							2.5kW	S-004161	7.6	-	-	-	-	-	-	-	-		
							2.8kW	S-004165	7.5	-	-	-	-	-	-	-	-		
							3.6kW	S-004169	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
4.0kW	S-004173	7.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	測定単位			単位	名称	評価方法の タイプ	標準条件に よる評価	選定する規格	規格の名称	計算方法		選定する規格	規格の名称	試験条件	説明
																		計算式	試験条件				
						往き水温(出湯温度)15℃	冷却能力	4.0kW以下	S-004233	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を以下のとおり設定することを条件とする。往き水温(出湯温度):15℃ 乾球温度:35℃ 湿球温度:24℃ 流量:6.4L/min				
								4.0kW超5.6kW以下	S-004235	-													
								5.6kW超7.2kW以下	S-004240	-													
								7.2kW超	S-004243	-													
						往き水温(出湯温度)7℃	冷却能力	4.0kW以下	S-004245	3	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度):12℃ 往き水温(出湯温度):7℃ 乾球温度:35℃				
								4.0kW超5.6kW以下	S-004247	2.84													
								5.6kW超7.2kW以下	S-004249	3													
								7.2kW超	S-004251	-													
L-000850	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ式 温水床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水暖房機。コンプレッサーで圧縮した気相冷媒を冷媒/水熱交換器内で凝縮させることにより温熱を得る。四方弁の切り替えにより冷熱を供給するタイプも存在する。ヒートポンプ方式を採用しているため、温熱を高効率に得ることができる。	-	加熱能力	5kW以下	S-004255	4.5 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度):25℃、往き水温(出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃				
								5kW超7kW以下	S-004257	4.32 *													
								7kW超10kW以下	S-004258	4.01 *													
								10kW超	S-004259	4.3 *													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件			
						条件	クラス能力(名称)			単位	名称	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価	標準条件に よる評価
L-000851	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン 付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンディ ションが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ 運転を主にし、負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖 房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には 床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とする などの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転と なる。	床暖房、エアコン同時運転	加熱能力	5.0kW	S-004262	4.5	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):30℃、行き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	S-004267	4.01	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻 り水温(入水温度):25℃ 行き水温(出湯温度):40℃ 乾球温度:7℃ 湿球温度:6℃	
						床暖房単独運転	加熱能力	6.7kW	S-004265	4.32	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻 り水温(入水温度):25℃ 行き水温(出湯温度):40℃ 乾球温度:7℃ 湿球温度:6℃	
L-000852	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	マルチタイプ温 水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンディ ション等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機器。1 台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるた め、高効率化が可能。	1室運転時加熱能力	加熱能力	5.0kW	S-004280	3.9	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
						1室運転時加熱能力	加熱能力	7.0kW	S-004281	3.91	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
L-000853	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ルームエ アコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイ クルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調 和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温度より 低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運転が可 能。	冷房能力	冷房能力	4.0kW	S-004427	4	0	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 13	ルームエ アコンディ ション	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(探 熱温度)については20℃とする。
L-000854	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒートポ ンプ冷温水シ ステム(ハイバ リッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替えが可能でヒートポン プ式の冷温水冷暖房機。圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイク ルを利用して、冷房時のシステム。暖房時はコンプレッサで圧縮 した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝縮させることで より温熱を、冷房時は圧縮・凝縮・膨張後の液相冷媒を蒸発器で液相 冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることでより冷熱を得る。 ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ること	加熱能力	加熱能力	8.0kW	S-004429	4.3	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温 (入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球 温度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温(出湯温 度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
						加熱能力	加熱能力	11.0kW	S-004435	4.15	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温 (入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球 温度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温(出湯温 度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
L-000855	家庭	空調	空調機 (ベレッ トストー プ)	密閉式ベレッ トストーブ(家庭 用)	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた熱 を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々 まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気するため 、室内の空気と交ることはなく、清潔な環境を保つことができ る。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排 出削減が可能。	-	-	-	S-004437	77	%	熱効率	標準条件に よる評価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法則則	η=100-(qa+qb+qr)、η:熱効率[%]、qa:試験 燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失(Qa) の比、熱による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、 qb:試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的 熱損失(Qb)の割合による熱損失の割合(燃焼 基準) [%]、qr:試験燃料の熱容量当たり底部格子 を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による 熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構成、物質によ る損失の割合(燃焼基準) [%]※発熱量は高位発熱 量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法則則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価 を行うこととする。
L-000856	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器対 応型エコキュ ート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以 上の高温沸きあげが可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱器を 組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユ ニットの集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用するた め、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004296	3	-	年間給湯保 温効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JRA4050:20 07R	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:20 07R	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004298	-	-	JIS C 9220:2011	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設 定することを条件とする。・蒸発期高温条件は、外 気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温 5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保 温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・若葉期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温 度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度 68℃とする。・夜間消費電力量比率は、80%とす る。		
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004301	3	-	年間給湯保 温効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	単位	名称	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
															標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価
						320L以上550L未満	S-004306	-					JIS C 9220:2011	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設定 することを条件とする。・着霜期高温条件は、外 気温（乾球温度/湿球温度）2℃/1℃、水温 5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保 温モード条件は、外気温（乾球温度/湿球温度） 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・着霜期給湯保温モード条件は、外気温（乾球温 度/湿球温度）2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度 68℃とする。・夜間消費電力量比率は、80%とす る。	
L-000857	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ ガス式)	ハイブリッド給 湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭 用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状 況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温 度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップす る。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を实 現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機(給湯：ヒート ポンプ、ガス)	-	-	S-004441	-	-	年間給湯効率	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機(給湯、暖 房：ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-004444	-	-	年間給湯効率	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機(給湯： ヒートポンプ、ガス、暖 房：ガス)	-	-	S-004446	141	-	年間給湯効率	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠
						風呂給湯兼用機(給湯： ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-004448	141	-	年間給湯効率	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠
L-000858	家庭	給湯	給湯器 (石油 式)	石油温水機器 (エコフィ ール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の空 気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含む)	-	-	S-004452	95	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JISS3031:20 09	石油燃焼機器 の試験方法通 則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機器 の試験方法通 則	JISS3031:2009に準拠
						暖房用のもの	-	-	S-004455	93	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JISS3031:20 09	石油燃焼機器 の試験方法通 則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機器 の試験方法通 則	JISS3031:2009に準拠
L-000860	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	真空管形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで構成 され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温 との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率 を維持できる。		-	-	S-004457	12694 *	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集熱 量	標準規格に よる評価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠
L-000861	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な 強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、断熱材 が施されている。		-	-	S-004461	13954 *	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集熱 量	標準規格に よる評価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠
L-000862	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循 環型太陽熱給湯 器用)(家庭 用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装置。		-	-	S-004465	1.54 *	W/K	熱損失係数	標準規格に よる評価	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	KA= (V×Cp×ρ (θs-θe)) + (T×∠θ) ∠θ= ((θs+θe)/2) - ((θ1+θ2+...+θn) /n) KA：熱損失係数[W/K] V：蓄熱槽容量[m ³] θs：試 験開始時蓄熱媒体温度[℃] θe：試験終了時蓄熱媒体 温度[℃] T：試験開始から試験終了までの時間[s] Cp：蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] ρ：蓄熱媒体の 密度[kg/m ³] θn：周囲温度[℃] n：1時間ごとに測定 した周囲温度の測定回数	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
											単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
									S-004467	93.2	%	有効出湯効率	標準規格による評価	JISA4113.2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法またはSS-TS002	JISA4113.2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法またはSS-TS002	JISA4113.2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法またはSS-TS002	JISA4113.2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法またはSS-TS002
L-000863	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受信機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold CathodeFluorescent Lamp;冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	-	サイズ	液晶 18V、19V 型	S-004337	32	KWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法で定める試験条件
								液晶 22V 型	S-004338	34											
								液晶 23V、24V 型	S-004340	30											
								液晶 26V 型	S-004342	-											
								液晶 29V 型	S-004344	-											
								液晶 32V 型	S-004349	34											
								液晶 39V、40V 型	S-004428	46											
								液晶 42V 型	S-004430	77											
								液晶 46V 型	S-004351	-											
								液晶 47V 型	S-004357	103							ブランク(入力なし)	省エネルギー法	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法で定める試験条件
								液晶 50V、52V 型	S-004359	72											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
							液晶 55V 型	S-004361	81														
							液晶 58V 型以上	S-004362	107														
L-000864	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式がある。※使用時に自動的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保溫しないので消費電力を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。	-	-	-	S-004436	58	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
L-000780	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	-	出力	200kW以下	S-004438	66.7 *	%	発電効率	標準条件による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化燃料電池システム-第3部:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物	$\eta = (W_{out} - W_{in}) / Q_f \times 100$, η_e : 発電効率[%], W_{out} : 送電電力[kWh], W_{in} : 受電電力[kWh], Q_f : 積算燃料消費熱量(低位発熱量) [kWh]	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化燃料電池システム-第3部:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠				
						-	200kW超250kW以下	S-004439	65.4 *														
L-000786	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。	-	-	-	S-004440	22.63 *	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
						-	-	S-004442	21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠					
L-000787	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。	-	-	-	S-004443	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
L-000788	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で各材料などの長所をもち、わずか2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率を得られる。	-	-	-	S-004445	14.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠				
L-000789	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	S-004447	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・仕組み	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)			クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
											単位	名称		標準規格に よる評価	規格の名称	標準規格に よる評価	規格の名称	説明		
L-000790	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式に比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満	S-004449	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008に準拠	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	説明
L-000791	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式に比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	S-004451	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008に準拠	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	説明
L-000798	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	プロペラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	S-004373	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) / (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	説明
L-000799	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	S-004454	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) / (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	説明
L-000803	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。一次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	S-004456	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P / Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上			
								3.0kW以上6.5kW未満	S-004458	-										
								6.5kW以上45kW未満	S-004459	5.7 *										
								45kW以上100kW未満	S-004460	6.2 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			S-004419	-	測定単位	評価方法の タイプ	標準条件に よる評価	環境省により 独自に設定さ れた方法	規格の名称	計算方法		標準条件に よる評価	規格の名称	試験条件
																		単位	名称			
						100℃以上120℃未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	S-004419	-	%	送電端発電効 率	標準条件に よる評価	環境省により 独自に設定さ れた方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端 出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバー タ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電 力)	環境省により 独自に設定さ れた方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入 口温度：20℃以上			
								3.0kW以上6.5kW未満	S-004420	-												
								6.5kW以上45kW未満	S-004421	-												
								45kW以上100kW未満	S-004422	-												
								100kW以上200kW未満	S-004423	-												
								200kW以上300kW未満	S-004424	-												
						100℃以上120℃未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	S-004409	-	%	送電端発電効 率	標準条件に よる評価	環境省により 独自に設定さ れた方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端 出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバー タ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電 力)	環境省により 独自に設定さ れた方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度：115℃以下、冷却水入 口温度：20℃以上			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単位	名称		標準規格に よる評価	標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明
										32	%	発電効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) + (H \times F) \times 100$ η_{out} : 発電効率 [%] P_{out} : 発電出力 (発電端) [kW] H : 燃料の低位発熱量 [MJ/m ³] F : 燃料消費量 [m ³ /h]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。	
						100kW未満														
						100kW以上1000kW未満				38.8										
						60Hz	出力	100kW未満		84 *	%	総合効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{Lout} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{Lout} : 発電端総合効率 [%]、 η_{out} : 発電効率 [%]、 η_h : 熱出力効率 [%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。	
								100kW以上1000kW未満		-										
								100kW未満		32	%	発電効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{Lout} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{Lout} : 発電端総合効率 [%]、 η_{out} : 発電効率 [%]、 η_h : 熱出力効率 [%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。	
								100kW以上1000kW未満		-										
L-000808	エネルギー転換	地域熱供給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材 (PCM:Phase Change Material) をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輛により広範囲に熱を供給する技術。	蓄熱容量、排熱源温度	蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃以上			11.2 *	[eq]	エネルギー効率	標準条件に よる評価	環境により 独自に設定された方法	-	エネルギー効率[eq]= Q_{out} / Q_{in} 、投入エネルギー量[Q_{in}]=熱回収に要するエネルギー量 (Qstorage)、+熱輸送に要するエネルギー量 (Qtransfer)、+熱供給に要するエネルギー量 (Qsupply)、熱供給量 (Qout) =需要先にて供給した正味の熱供給量	環境により 独自に設定された方法	-	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上、2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満4.0km/l	
							蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃未満			8.8 *										
							蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃以上			6.8 *										
							蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃未満			4.8 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			準拠する規格		試験条件		
											単位	名称		標準条件に よる評価	環境省手引き	規格の名称	計算式	規格の名称	規格の名称	説明	
L-000829	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 HAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	りん酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシウム材を添加し、pH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタイト、 $(Ca_{10}(PO_4)_6(OH)_2)$)の結晶を析出させる方法。回収したリンは副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-	-	S-004405	80 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥=4：6、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/L		
L-000830	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	りん酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム、 $(MgNH_4PO_4)$)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化成肥料として再利用可能。	-	-	-	S-004406	75 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥=4：6、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/L		
L-000831	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法(下水汚泥用)	脱水ろ液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム)として回収する「MAP法」が平成24/25年度国土省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料(化成肥料)として再利用可能。	-	-	-	S-004407	90 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	国土交通省ガイドライン	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月 消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン(案)	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度) / 消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省国土技術政策総合研究所	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月 消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン(案)	消化汚泥濃度(TS)：1.7%、消化汚泥T-P濃度：600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L		
L-000833	廃棄物・リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去(サーマルリサイクル)やPP,PS,ABS選別(マテリアルリサイクル)に使用される。	-	-	-	S-004408	3	種類	選別樹脂種類数	標準条件による評価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(省CO2製リサイクルル高度化設備導入促進事業)交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定	-	選別純度：99%、(ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合)		

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準1	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準2	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準3	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有 ②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有 ③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも ④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない ⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない 要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能 要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能 要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能 要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能 要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準4	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有 ②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>